JADECOM-NDC 研修センター

特定ケア看護師の挑戦

市立奈良病院における３人目の特定ケア看護師の現状報告

市立奈良病院　今田恵美

施設背景と所属配置

皆さん，初めまして．私は市立奈良病院で特定ケア看護師として勤務しています．市立奈良病院は「地域の安心と笑顔を大切に」をコンセプトとする地域医療に貢献する急性期病院です．救急，がん，災害，小児，周産期を中心に29の診療科，病床数350床を掲げています．そして当院では，地域医療振興協会が設立した，特定行為にかかる看護師の教育機関で研修を修了した２名の特定ケア看護師が従事しています．私は当院では３人目の，第４期生として研修を受けました．現在は看護部管理室に籍をおき，自施設でローテーションを組み各診療科で研修中です．2021年３月に研修を終了し，本格的に活動を開始する予定です．

特定ケア看護師を目指した動機

私は看護専門学校を卒業後，ICUやCCU，HCUなどを中心に10年以上，急性期病棟で従事してきました．特定ケア看護師というものがあることを知り，期待される効果である「タイムリーな患者対応」「患者を待たせずに済む看護師のストレスやジレンマの軽減」を見たとき，日々の業務の中で特に歯がゆさを感じていることだと思いました．看護師は患者家族の声を一番近く，早いタイミングで見聞きすることができるのに，医師にうまく伝えられないことや，「待つ」ことで悔しい思いをしたことがたくさんありました．そんな思いを日々抱えながら業務をしていた時，同じ病棟に特定ケア看護師の１期生がいました．業務に携わる姿はとても頼りになり，刺激を受け，たくさんの学びを得ました．日々の医師とのカンファレンスから得た治療方針や病態変化の情報を分かりやすく共有したり，医師不在時の患者の状態変化をいち早く相談したりすることができ，臨床推論を活かした処置や対応に日々助けられました．また，研修で得た知識，技術は患者だけを待たせないためだけではないと感じました．医師との関わりを多職種へと共有することでチームとしてのスムーズな連携につながっていると実感しました．さまざまな側面からアプローチし，何事も待たせない看護師へと進化したいためにも特定ケア看護師を志望しました．

日常業務

2020年４月から2021年３月の１年間はローテーションを組んで各診療科の研修にまわっています．各診療科のほかに，診療所やエコー室でも研修を受けています．主な研修内容は，指導医が担当している患者を一緒に受け持たせてもらい，病歴聴取や身体診察を実践し治療計画を立案したり，病状変化時には臨床推論をもとに指導医にプレゼンしたりする中で，特定行為があれば実施しています．診療科ごとのカンファレンスや勉強会への参加，特殊な処置や検査の見学や介助をさせてもらっています．

活動の効果と今後の課題

特定ケア看護師の研修を始めてから，さまざまな勉強会や多職種カンファレンスに参加するようになりました．医師に囲まれる勉強会は繰

り返し参加することで，理解できる内容も増えています．現在は，自分が理解し振り返ることだけで精いっぱいですが，フィードバックしていけるよう学習を積み重ねています．また多職種カンファレンスは一看護師として参加していた時とは違った視点を持てるようになりました．以前は，提案された内容によっては，できないと一方的に拒否することもありました．カンファレンスは重要であることは分かっていながらも，日々業務に追われ，ないがしろにしてしまうこともありました．しかし，特定ケア看護師となってからは，さまざまな提案が患者にとってどんな影響を及ぼし，どんな効果があるのかを，スタッフ同士が理解しやすいように発言することができるようになりました．そして，看護師が分かりやすく，実働しやすくできるかを考え，より安全にまた業務負担にならないよう実践できるかを一緒に考えるために，病棟スタッフへ声をかけるようになりました．ベッドサイドでケアを実践することが多いのは看護師です．患者によりよい医療を提供するための提案を無駄にしないためにも，医療スタッフ同士の架け橋となれるよう努めていきたいと考えています．

当院では既に２名の特定ケア看護師が従事していますが，ローテーション研修していて知名度や活動体系の理解にばらつきを感じました．当院では９つの病棟と外来，手術室があるうち，末梢留置型中心静脈カテーテル（PICC）挿入などの特定行為や，院内救急対応システム（RRS）において横断的に活動することもありますが，主な活動場所は脳神経外科病棟とICU/CCU病棟の２つに固定されています．それらの病棟と，

臨床研修中の PICC 挿入時の様子

医師から特定行為の依頼を受け実施することが中心となっている病棟とでは，研修内容の理解に差がありました．医師を含む病棟スタッフが特定行為の研修に来たという印象が強く，臨床推論を踏まえた診療業務の研修が中心ということに結びつけることが困難でした．特定行為が実施できる看護師であることは分かるが，特定行為にどんな種類があり，どのような内容で，どういう流れで実施できるのかは分からないといった印象でした．ただ，このような認知度，理解度の中でも医師や看護師，コメディカルと研修を通して関わっていく中で，こういうこともできるのか，頼めるのかと知ってもらい，助かりましたと言われることが増え，特定ケア看護師として需要のある病棟を知ることができました．３人に増えたからこそ，特定ケア看護師がひとつのチームとしても組織横断的に活動していける可能性を模索していきたいです．